



## 婦人会活動①

～明治から戦中

### 銃後の守り、大日本婦人会



大日本婦人会の人達の記念撮影

封建社会時代の家族制度のもと、男尊女卑、家長絶対という風潮の中では、婦人の組織や活動はなかなか芽生えませんでした。明治33年北清事変のとき、奥村五百子が出征兵士や疾病兵の慰問、遺家族援助を行う目的で婦人団体の創立を提唱し、翌年国の肝いりで上流婦人層を対象に愛国婦人会が組織されました。北海道では同35年に広がりを見せ、愛国婦人会野付牛分会が設立されたのは同38年。日露戦争の銃後奉仕活動を主としていました。置戸にも10数人の会員がいたとみえ、野付牛より分村時の大正4年に愛国婦人会が引き継がれました。満州事変後の昭和7年には、軍の指導による大日本国防婦人会が創立され、置戸分会も歴代村長夫人を会長として愛国婦人会と二本立ての婦人団体ことができました。「日本婦人として護国の大儀を實踐して国防上銃後の力になる」という目的を掲げた国防婦人会は、全戸婦人加入を目標とし、戦争の拡大によりその役目はますます強化されていきました。

制服や黒紋付の正装に資格を表す記章をつけた

愛国婦人会員と、白い割ぼう着にたすき掛けを制服とした大衆的国防婦人会員の間には精神的な対立におちいることもあり、思想統一を図る上で支障をきたすといった観点から、国では昭和17年婦人団体の統合を行って大日本婦人会を結成させました。大日本婦人会は全国婦人を統一する組織で、全単位町内会に婦人部を置いて「兵隊さんは命がけ私たちは襷（たすき）がけ」を合言葉に各事業の推進を図りました。置戸では、同年6月21日に結成し、支部長に相馬むめを任命。40班の会員1600名で、農林勤労奉仕、軍用うさぎ献納、貯蓄生活改善などの実践項目を掲げました。このほかにも国防訓練、廃品回収、軍事援護、必勝貯蓄増強運動などがあり、防空頭巾をかぶって、必死にバケツ手送りの防火演習をする姿や、援農、松葉油の採取まで男と同列に活動する涙ぐましい群像が散見されました。なお、軍用うさぎ献納運動では全道一の成績を挙げるなどその活躍は顕著なものがありませんでしたが、大日本婦人会置戸支部は終戦と同時に解散しています。（参照：置戸町史上巻）

## 広がれ、花いっぱいの輪

31回目を迎えた「花いっぱい共励会」。今年は、花壇の部、ガーデニングの部を合わせて24件の参加申込がありました。審査員は、花の見栄えだけでなく花がらや草取りの状況、花器への工夫なども丁寧に審査し、「天候不順の中でも綺麗に花を咲かせている技術はさすが」「共励会の参加者以外でも花を楽しむ人が増えているのでは」などと話していました。

### 第31回花いっぱい共励会 審査結果・最優秀賞

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| 花壇の部（団体）        | 勝山寿クラブ     |
| "          （個人） | 篠原富子さん（安住） |
| ガーデニングの部        | 坂本和美さん（若松） |

